

富岡町議会全員協議会日程

日 時：令和5年4月26日

時 間：午 前 9 時 0 0 分

富岡町役場 全員協議会室

開 議 午前9時00分

出席議員（10名）

| | | | |
|----|---------|----|--------|
| 議長 | 高橋 実君 | 1番 | 堀本 典明君 |
| 2番 | 佐藤 敦宏君 | 3番 | 佐藤 啓憲君 |
| 4番 | 渡辺 正道君 | 5番 | 高野 匠美君 |
| 6番 | 遠藤 一善君 | 7番 | 安藤 正純君 |
| 8番 | 宇佐神 幸一君 | 9番 | 渡辺 三男君 |

欠席議員（なし）

説明のための出席者

| | |
|---------------------|--------|
| 町長 | 山本 育男君 |
| 副町長 | 高野 剛君 |
| 副町長 | 竹原 信也君 |
| 教育長 | 岩崎 秀一君 |
| 総務課長 | 志賀 智秀君 |
| 企画課長 | 杉本 良君 |
| 都市整備課長 | 大森 研一君 |
| 生涯学習課長 | 坂本 隆広君 |
| 総務課長補佐兼管財係長 | 福島 好邦君 |
| 企画課長補佐 | 畠山 信也君 |
| 生涯学習課長兼生涯学習係長 | 三瓶 秀文君 |
| 都市整備課主任兼都市計画係長兼建設係長 | 駒田 栄雄君 |

生涯学習課
生生涯学習係
副主査

渡邊善幸君

職務のための出席者

| | |
|--------------|------|
| 参議会事務局長 | 小林元一 |
| 議会事務局主任兼庶務係長 | 杉本亜季 |
| 議会事務局事務係主任 | 高橋優斗 |

付議事件

- 富岡町総合体育館耐震補強その他改修工事について
- その他

開 会 (午前 9時00分)

○議長（高橋 実君） 皆さん、おはようございます。ただいまより富岡町議会全員協議会を開会いたします。

ただいまの出席議員は全員であります。説明のための出席者は、町長、両副町長、教育長、そのほか関係課長であります。職務のための出席者は、議会事務局職員であります。

付議事件に入る前に、町長より全員協議会招集内容の説明とご挨拶をいただきたいと思います。

町長。

○町長（山本育男君） おはようございます。議員の皆様には、お忙しい中、全員協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の全員協議会の案件は、富岡町総合体育館耐震補強その他改修工事についての1件であります。本件に関しましては、今月18日の総務文教常任委員会、19日の産業厚生常任委員会において、令和4年福島県沖地震での被害を受け進めてまいりました調査設計等に基づき、耐震補強と長寿命化の工事を行う旨ご説明申し上げましたところであります。今年度末の事業完了を目指し、工事等を進めるため、本施設の改修の必要性や施設の安全性の確保など、議員各位のご理解をいただきたく、改めてご説明の機会をいただくことといたしました。詳しくは担当課長より説明させますが、富岡町総合体育館は、本町はもとより、地域の復興、再生に必要な交流施設でありますことから、再開に向け着実に復旧を進めるため、議員の皆様の忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○議長（高橋 実君） ありがとうございました。

それでは、付議事件に入ります。付議事件1、富岡町総合体育館耐震補強その他改修工事についての説明を生涯学習課長より求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（坂本隆広君） 皆様、おはようございます。本日は、生涯学習課より、本年度実施を予定しております総合体育館耐震補強その他改修工事の内容についてご説明をさせていただきます。

本案件につきましては、先週の18日、19日に開催いたしました両委員会におきましてご説明をさせていただきましたが、本日改めて被害箇所の状況、耐震診断結果及び診断結果に基づきます改修工事の内容についてご説明をさせていただきます。資料の説明につきましては、三瓶補佐より行いますので、よろしくお願ひいたします。

以上です。

○議長（高橋 実君） 生涯学習課長補佐。

○生涯学習課長補佐兼生涯学習係長（三瓶秀文君） おはようございます。それでは、総合体育館耐震補強その他改修工事についてご説明させていただきます。

総合体育館は、東日本大震災において平成28年度に災害復旧工事を行いましたが、令和3年2月に起こった地震におきまして被害を受けた箇所を修繕し、その後起こった令和4年3月の地震で現在のような被害の状況となってございます。令和4年4月には両委員会で被害の状況、今後耐震改修の方針であることを説明させていただきました。令和4年度において、耐震診断と耐震補強に向けた実施設計を行いましたが、本日改めて施工方法、その内容についてご説明をさせていただきます。また、耐震補強に加えて、建物の長寿命化としてアリーナの床の改修、照明のLED化を併せて実施し、現在建設から40年を経過する既存の総合体育館を今後20年から30年にわたって安全性を担保しながら利用できる施設としてまいりたいと考えてございます。なお、地震直後は災害復旧も検討しましたが、現況復旧が原則であり、災害復旧では長寿命化やグレードアップを行うことが難しいということから、今回廃炉交付金を活用させていただくことで計画をしてまいりました。新築に係る概算経費として約35億円という説明を先般させていただきましたが、約7分の1程度の額で実施が可能であること、新たな建物の設計期間、解体期間、建設の期間を考慮しても、短い時間で利用が再開できるということから、これまでご説明をさせていただきましたとおり、耐震改修の計画で進めていきたいと考えております。

それでは、2枚目、1枚めくっていただきまして、①の図を御覧ください。総合体育館の平面図になります。右側の赤く着色した部分、いから、い、ろ、は、に、ほまでの部分、こちらの赤字の部分が先般ご説明させていただいた構造体損傷のあった柱、はりの箇所になります。耐震診断の結果、建物の東側に被害が集中していることから、今回赤色の着色の箇所について、やり替えをすることとなっております。また、中央の写真のようにコンクリートのコア抜きを行いまして、コンクリートの現況、内部の鉄筋の状況も確認をし、アリーナ部分については被害がないことを確認しております。

続いて、②の写真を御覧ください。上の図面が東側から、下の図面が南側からの施工箇所を記した立面図になります。ステージ上部の天井の撤去とやり替えを行い、先般ご説明させていただきましたとおり、つり物などの撤去を併せて実施し、東側に3本のバットレスを設置する工事の内容となっております。これにより被害の集中した建物東側の耐力を向上させるとともに、傾いている東側の壁面に構造物を設置補強をしていくという内容になってございます。以上のように、施工箇所は建物の東側に集中しているというような内容の工事になってございます。

続いて、3枚目の図面を御覧ください。アリーナの部分について、照明のLED化とともに、トラスの下に水平ブレースを追加設置し、建物全体の補強を行います。これによりまして、耐震診断の基準値、IS値0.6を満たし、耐震計画の評価では公共施設の避難所として利用できる値、0.75の値まで高めることができる設計となっております。既存の建物をできるだけ安価に、長年にわたって利用できる施設として、耐震補強と併せて今回長寿命化を実施させていただきたいと思いますので、ご理解賜りますようよろしくお願ひいたします。

説明は以上になります。よろしくお願いします。

○議長（高橋 実君） 課長。

○生涯学習課長（坂本隆広君） 配付をしております資料でございますが、一番上の資料につきましては、先日の両委員会で説明をさせていただいた資料と同じものを参考で配付しておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上です。

○議長（高橋 実君） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑ございませんか。

1番、堀本典明君。

○1番（堀本典明君） では、私から数点質問させていただきます。

まず、今回ステージの部分が非常に壊れていたということで、私は構造体にこんなに破損等があったというのは初めて先週の常任委員会で聞いたものですから、本当に今後お金をかけて改修して大丈夫かなという不安があります。その中で、例えばステージの部分を撤去してしまうとか、そういう考えはできなかったのかどうか、耐震その他の補強については特に問題ないと考えていますが、大きく壊れてしまった部分、こういったところを取り除いてもいいのかななんていう気もするのですが、その辺の考えはあったかどうか。

あと、先ほど被害調査で災害復旧も可能だということであったのですが、災害復旧で対応できる部分は災害復旧で補助等をいただきながらやって、その他どうしてもバージョンアップしなければいけない部分については町の持ち出しでやるというのも考えられる手ではないかと思うのですが、それはできるのかできないかというところ。

あと、今回構造体が壊れてしまったということで、設計ができているので、直せるという判断だと思うのですが、こういうはりとか柱に大きな損傷がある建物の補修の実績というのはしっかりとあるのかどうかというところ。

あと、ここ体育館、震災後、いろいろ災害があってあまり使われていないと思うのですが、震災後どのくらいの利用実績があったのか、その辺も併せてご答弁いただければと思います。

○議長（高橋 実君） 生涯学習課長補佐。

○生涯学習課課長補佐兼生涯学習係長（三瓶秀文君） それでは、4点いただきましたので、まず1点目のステージの撤去の改修の検討されたのかということをお答えさせていただきます。

ステージの部分が悪さをしているということで、前回もお話をさせていただきました。重いものが天井に載っているのが一番建物にダメージを与えるという説明を受けましたので、設計を進めていく中で耐震診断の結果が出た状況の中で、一番低いところで I s 値0.138という0.6を大きく下回る値になっているところがありますが、ステージそのものを撤去したらどうなるのという話はさせていただきました。今度それをやってしまうと大規模改修という形になってしまいますので、簡単に私も考えてしまったのですけれども、あれだけの規模のステージを壊して、壁を新たに立ち上げるということは、改修の内容も変わってしまいますので、あまり現実的な設計にならないというような指摘を

受けましたので、こちらは既存のものとなるべく被害を少なくするというような設計の方針にさせていただいた経過がございます。

あわせて、2番で災害復旧可能だったのかということなのですが、当初震度6強ということで令和4年3月の地震がありましたので、災害復旧も当然検討する中で、より迅速に、今後、体育館をもたせていくというところで何がいいのかということで現在財源を基金という形で持たせていただいた形になります。グレードアップというよりも、今回アリーナ部分の水平プレースを追加する工事が含まれていますけれども、こちらも補強しないと0.6を下回ってしまうというところがありましたので、こちらも踏まえて今回新たに長寿命化を併せて、もう少し長く使える建物にしてしまいたいというような工事の内容になってございます。

3番目の工事の実績があるかということなのですが、こちら今現在入札を条件付一般競争入札という形でやらせていただいて、同規模の建物で10年以内に耐震改修の工事の実績があることということで縛りを設けさせていただいております。

最後に、ご質問いただきました利用実績ということなのですが、震災前ですと年間約15万人、スポーツ少年団なんかも使った実績を踏まえてですが、使っていた施設になります。合宿の里ということで、町を挙げて合宿の誘致ですか、いろんなスポーツ施設が集中していますので、交流人口拡大ということで資してきた施設になります。平成28年の災害復旧の後、利用実績でございますが、令和元年度におきましては体育館5,000人、年間利用があった状況になっています。令和2年度、3年度におきましては、コロナの影響もあったり、令和2年度は地震もあって半年間使えなかったということもありましたので、3,000人程度の利用になっている状況でございます。令和4年度におきましては、1年間体育館が使えませんという状況が続きましたので、実績がないのですが、それでも体育館を外しても、スポーツセンター全体で約3万人の方が利用をしているというような施設になりますので、体育館も併せて利用再開した暁には多くの人を呼び込んでいけるような施設としてやっていきたいと考えてございます。よろしくお願ひします。

○生涯学習課長（坂本隆広君） 先ほどの答弁について補足をさせていただきます。

2つ目の災害復旧の補助金の件でございますが、これについて、災害箇所については災害復旧の補助金を使って、あと耐震補強するものについては単費を使ってというようなことで抱き合わせをしてできないのかというような質問も含まれていたと思いますので、そちらについてはあくまでも災害復旧で行う場合はその被害箇所のみの工事にしか適用にならないということで、抱き合わせて工事を行うことができませんので、今回は廃炉交付金で実施をさせていただくということで決定をさせていただいたところでございます。

以上です。

○議長（高橋 実君） 1番、堀本典明君。

○1番（堀本典明君） 抱き合せで工事できない、そういういろんな縛りがあると思うのですが、

ステージの分だけは災害復旧で補修をして、補助をいただきながら、例えばその後に足りない、今また地震で壊れてしまうようなことがないように補強等というのを別工事でやるという手もあるのかなと。あと、長寿命化その他は体育館を使うのであれば必要だと思いますので、そこはまた別途発注、ちょっと時間かかってしまうという理由になるのかもしれませんけれども、そういう考え方もありなのではないかなというところです。それと、入札条件で耐震補強されている実績があるかと私質問しているのは、はりであるとか柱とかがこれだけ壊れてしまった、建物の構造的に重要な部分ではないですか、そういういたところのやり直しなどをして、それがそういう実績があつて特に問題なく、今の技術なので問題ないのだろうという話だと思うのですけれども、設計もできているので、その辺の実績があるのをちゃんと調べていただいたかどうかというところです。結局また同じ地震があったときに壊れてしまっては意味がない。耐震補強もしているので、それはないでしょうという話だと思うのですけれども、その辺の実績がしっかりあるのかどうかというところを聞きたいです。

あと、私、建築専門ではないので分からないのですけれども、もうステージの部分が体育館と離れているという話なので、壊してそこに、壁張るぐらいだったらもうちょっと安く済むのかなという考えなのです。なので、そういういたところのお考えはされなかつたのかなと。さて、そこのほうがお金かかるみたいな話なのですけれども、どういう検討だったのかなというところかな、ちょっとその辺が理解できないので。耐震補強自体は、全然、体育館を残すのだったらやるべきだと思いますので、その辺の3点どのようなお考えか教えてください。

○議長（高橋 実君） 生涯学習課長補佐。

○生涯学習課長補佐兼生涯学習係長（三瓶秀文君） ありがとうございます。まず、災害復旧でできなかつたのかということで、いろいろ期間の面も考慮させていただきながら、先ほど課長からも答弁していただきましたけれども、ステージのところだけ災害復旧でやって、ほかのところは持ち出し、単費でできないのかということも検討させていただきました。全体的に費用と、あと期間を考えたときに、このような基金をつくっていただいて、やらせていただいたというような経過がございます。工事として発注の形態を考えたときに、一括で1つの工事でやれるということがまず大きいのかなと思いますし、何よりもなるべく早く使えるような状況を持っていきたいと考えてございます。よろしくお願ひします。

あと、建物の構造体がやられているということで、これがやり替えで本当にもつのかということで、これも私もこの写真を見たときに最初びっくりしてしまって、これどう直すのですかということを設計業者に聞いた経過がございます。クラックが入っているところまで鉄筋まで全部ばらして、もう一回そこからコンクリートの柱、はりをやり直す工事だと聞いています。耐震補強の柱、はりのやり方にはいろいろあると思います。カーボンの根巻きをしたり、いろんな工種があるのですが、今回は一度やり替えをしてしまうというような形ですので、一番強度が保てる工種になろうかと考えてございます。I S 値ということで、先ほど、すみません、専門用語のようなところばかりお話をしてしまう

のですけれども、今設計段階で0.75、公共施設として避難所として使える建物のレベルまで持つていいという形ですので、こちらをやることで今設計の評価を受けていますので、構造としては今よりも強くなるという形になっています。こちらは同程度の地震が今後起きた場合に、全く新築でも被害が出ないというようなわけではなく、例えば震度7で地震が来たときに被害がない建物というのはなかなかないと思いますが、同程度の地震が来た際には、少なくとも同じような被害はなく、最小限にとどめられるというような形での設計上の評価になってございます。

長寿命化ということで最後ご質問いただきましたが、水銀灯がもう生産をされていない状況で、体育館の天井については水銀灯をまだ使っているような状況で、アリーナの床については、40年間張り替えをしないで削ってラインを引いてずっと使ってきましたが、こちらをまた長く使える状況に戻したいと、根太の部分から床の部分までやり替えをしたいというような形になっています。今回悪さをしていた重いものが建物の上に載っかっているという部分をまず構造的に軽くしてしまうということ、併せて長く既存の建物を使えるというような施設として、なるべくコストがかからないような形で今ある既存のインフラをなるべく長く使っていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上になります。

○議長（高橋 実君） 竹原副町長。

○副町長（竹原信也君） 私から構造体的なことをお話ししさせていただきたいと思います。

今回の復旧によって、①の図面のいとほという柱、まさにクラック、ここも出ているところでございますが、こちらに関しましては、今回の耐震補強で脇の、左側になりますか、上のほうにXの13というラインがあると思います。そちらの壁にブレースで応力を伝えて柱を守るというような、そういう形の補強をすることが1点でございます。あと、ろ、は、に、については、実はこれくついている壁ではなくて、真っすぐ立ち上がっている一般的な柱と思っていただければと思います。一般的に柱だけで立っていたものを、これがぶらぶらということで、この部分が今回悪さをして、揺れて、構造体、ステージを壊してしまったということがありますので、この柱をフィックスするために後ろのほうにバットレスを立てるという形で、こちらも独立的に耐震の0.75を満足するような形で補強できるというのが1点でございます。

あと、こちらステージをやり直すということも考えられますが、基本的にここに係る費用というのは全体の費用からすると大体15%ぐらいの費用でございます。先ほどありました地震による災害復旧に係る部分につきましては、屋根の防水と舞台装置の復旧、こちらが今回のもし地震でやろうすると、災害復旧の部分になるかと思います。こちら先行して屋根防水と舞台の装置の復旧というのは、まずは耐震を直して、壁とか直していかないとできないもので、それで一連でやらないとできないということで、最初にそこをやってから、災害のところをやって、その後直すということができなかつたもので、一連でやるということで今回単独費という形になったということでございます。

以上、追加でご報告させていただきます。

○議長（高橋 実君） 1番、堀本典明君。

○1番（堀本典明君） では、今副町長からのお話だと、大規模に壊れたステージの改修については、今予定している金額の15%程度ということで、それほど大きな金額ではないということで、それ以上にこの40年を経過した建物をもう10年、20年、安心して使っていけるように、この際なので耐震補強をするところに大きな費用がかかっているというところでよろしいのかなと感じたのですが、その辺確認させてください。

あと、これそんなに大きな費用ではないよというところなのかもしれません、今後の考え方として、どうしても同じものをそのまま復旧するのがいいのかどうか。もしかして今、昔と違って学びの森等もあるので、いろんな式典とかってそちらでできるではないですか。その中で、もしステージが邪魔しているのであれば、もう体育館にステージ本当に必要なというところも考えながら、それが逆に費用大きくなってしまうというのであれば別なのですけれども、そういうのが悪さしているのだったら、今可動式のステージなんかもあると思うので、そういったところも考えながら、無駄なところは補修しないで解体していくとか、そういった考えも必要かと思うのです。今後いろんな施設について、その辺もお考えいただきながら事業を進めていただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 生涯学習課長補佐。

○生涯学習課課長補佐兼生涯学習係長（三瓶秀文君） ありがとうございます。工事の内容につきましてですが、今副町長からお話しいただきましたとおり、耐震補強の部分については全体の15%程度ということですが、やはり億というような形になってしましますので、それなりにお金はかかる工事として、そして耐震の設計の中で評価を受けていく中で今数値として出ているもので、そちらは信頼を持って数字を見て、着実に進めていきたいと考えてございます。学びの森等も今ありますので、建設当時とは違う使用になっていますが、利用の状況についてもそれが想定されると思います。総合体育館については、こけら落としの後、「のど自慢」なんかもやったという話で聞いていました、かなりデラックス仕様の照明にもなっていました。1,500ルクスという天覧試合ができる照明の照度を持っている体育館に実はなっていますが、これは現況LED化する段階でここまでは必要ないと思いますので、1,000ルクスに落としてみたり、これでも公式の試合はできる状況になりますので、そういういた費用面も見ながら設計を進めてまいりました。あわせて、アリーナ部分につきまして、先ほど「のど自慢」のお話もしましたけれども、コンサートができる仕様の体育館としてなっていますが、反響板ですとかつり物がたくさん載っている状況になってございます。この際ですので、重いつり物がステージの上に載っているものについては、ほとんど稼働していない状況で今までございましたので、この際建物の天井を軽くするという意味でも外してしまいたいと考えてございます。現況に鑑みながら、既存の施設を長く利用できるようにしていきたいと考えてきた設計内容になっていますので、

ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

以上になります。

○議長（高橋 実君） 1番、堀本典明君。

○1番（堀本典明君） 耐震補強その他については、取りあえず分かりました。

先ほど最後にご質問させていただいた今後の考え方として、これがあるからそのまま復旧するとかという考え方ではなくて、時代の変化に伴って、不要な部分まで補修が必要なとき補修していくうではなくて、もしかするとその部分はなくなつてもいいのではないかとか、もう少し時代の変化を感じながら、それが本当に必要かどうかをしっかり考えていただきながら、補修であるとか、そういうのを進めていただきたいというところを町長か副町長からお答えいただければと思います。

○議長（高橋 実君） 竹原副町長。

○副町長（竹原信也君） ご指導ありがとうございます。富岡町には学校の体育館とかいろいろございますが、上からつり物ができるようなステージを持つ体育館はここ1か所でございます。いろんな場面、場面で、町民だけでなく、前はこちらに合宿センターもあったりして、今も大学とか、そういうところでこちらを使われるのが、町民よりもそういう大会で使われるのが一般的になっております。そういうところで、今後、スポーツ関係とか、そういう形で町に来ていただくのにはこの大きさと、まずアリーナは必要だろうと思います。それと、やはりイベントをやるときにはステージというのは必ず不可欠なものでございますので、ここでこれからまちづくりとしていろいろ人を呼んでくる、あとはコンサートをやったり、そういうことも、学びの森もございますが、あそこは観覧席とステージということだけになります。こちらはアリーナがあつてということになりますので、今後まちづくりに使うためにこのステージは復旧していかなくてはいけないものかと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。なおかつある程度の耐震でもたせることができることも今回分かったもので、こちらのほうを進めていきたい。全体工事費としては、先ほどお話しをさせてもらったとおり、こちらの耐震と震災、地震の復旧で4割ほど、あとは床の張り替えとか、そういうところもございまして今回の金額になっておりますので、ご理解のほどをよろしくお願ひいたします。

以上です。

○議長（高橋 実君） 高野副町長。

○副町長（高野 剛君） 最後の時代の変化に伴ってという今後の考え方というところで少しお答えをさせていただければと思います。

被害を受けた箇所の復旧ということは速やかにということを基本としつつも、ご指摘のとおり時代の変化に伴う状況の変化ですか、あとは利用の状況等を踏まえまして、それぞれ施設ごとに検討をしっかりとまいりたいと考えてございます。また、最少の経費で最大の効果を上げるということが基本中の基本というところでありますし、もちろんその財源の確保というところも念頭に置きながら、スピード感を持って進めていくという形で、今後の考え方というところでしっかり元のとおり直

すばかりではないというところも念頭に置きながら、しっかりと進めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございませんか。

8番、宇佐神幸一君。

○8番（宇佐神幸一君） ありがとうございます。先ほどの説明十分理解できます。また、この施設は早めにやらなければいけない施設でもあるのですが、先ほどの説明や、委員会でもお話が出た中で、一般競争入札を使われるということをお話しいただきました。委員会で委員の方からも出たのですが、規模的なもの、あとは耐震の構造のものについて、なかなか地元の企業はやれていない、またはやっていなかったということも説明いただきました。ただ、今回の一般競争入札、今までの指名競争入札と違って、地元外の方が多く来ると思うのですが、それに対して町民の方たちには、細かいことも全部関心を持っている方が多い中で、今回新しい業者が来たときに、本当にちゃんとしたのを造ってくれるのか、またそういう構造にちゃんと対応しているのか、細かい調査というか、そういうのも分からぬ業者も出てくると思うので、そういう場合も含めてこれから町執行部にお願いしたいのは、入札は私たちがどうこうやれることではないのですが、そういうのを踏まえた、モラル的なものを踏まえたやつで、入札についての考えはあるのかどうか、その点を聞きたいのですが。

○議長（高橋 実君） 総務課長補佐。

○総務課課長補佐兼管財係長（福島好邦君） ありがとうございます。今回の入札につきましては、条件付一般競争入札になっていますので、一定程度の経歴があるとか実績があるということの条件を絞って募集をかけておりますので、その条件に合致した業者のみ参加という形になります。よろしくお願いします。

○議長（高橋 実君） ほかにありますか。

9番、渡辺三男君。

○9番（渡辺三男君） これ前回の委員会で資料を頂いて、説明を受けましたが、前回は今日から比べると資料不足ということで、納得いかない部分がいっぱいあったという思いです。それで、先ほどの副議長の質問の中で、今後の町としての考え方をやっぱりきちっと出すべきということで、今高野副町長から答弁もらいました。私もそう思っているのです。前回もいろいろ言わせてもらいましたが、やっぱり体育館、我々原発事故で避難を強いられ、よその町村とか方々に散らばって避難させていただきました。原発事故だから富岡町外に出て避難しましたが、原発事故以外の災害であれば、当然町内に、避難所にとどまるというのが本来の姿かなと思うのです。そういう中で、富岡町は震災のとき1万5,000人から1万6,000人近くいたわけですから、それに戻そうとして、我々も執行部も本気になってやっているわけです。ただ、残念ながら、なかなか1万5,000人までは戻らない。人口が下がっていく一方だということなのですが、戻そうとしている中では、当然必要なものは必要なのです。こ

れも普通の直し方だけすれば避難所にはならないよと。0.6を満たす修繕を行わなければ、避難所としての指定はできないと。0.75に強度を上げることによって、避難所としての施設に満たされるということですから、当然お金かかってもやることはやらなければならないと思うのです。そこで、先ほど高野副町長が言ったように、やっぱり直すべきところはきちっと直さなくてはならないし、あとは全体を見て壊すべきものは壊す。今回私も、本来であれば、富岡町の長い姿で考えていけば、これは当然新築すべきと前回の委員会では思ったのです。35億円かかっても、多分今はじゃんじゃん上がっているから、35億円と踏んでも40億円、45億円とかかるのかなと思うのです。これは幾らかかるか分からないのですが、35億円の7分の1くらいということを言っていますので、片手ぐらいのかなと思うのですが、それがいいか悪いかは別にして、早急に避難所としての機能を果たせるように直さなくてはならないということは事実なのです。そういう中で、私もまた地震来たらこういうふうになるのが心配だから、新築のほうがいいかという思いもあるのです。これだけの資料を出してもらった中で、柱関係はコンクリートはずって、鉄筋までむき出しにして再度打ち直しとか、後ろの3本の柱は、竹原副町長が言ったように、あんまり意味のない柱だったのかなと思うのです。この柱が上までいって、上でしっかりとつながっていれば話は別なのでしょうけれども、あとは壁構造体で上がっているのだと思います。そういう中で上をどういうふうにしてつなぐか。このバットレスに関してはきちとした施工をすると想いますので、上の頭の構造体とアリーナ部分のつなぎ、どういうふうにしてつなぐのかなと思って、私も不思議に思っているのですが、多分鉄筋むき出しに出て、アリーナ部分と鉄筋でもつていて、鉄骨でもつてつながらぬのか、鉄筋を組んでつないでコンクリートを打ち増していくのか、その辺分からないのですが、この辺のつなぎ方だと思うのですが、その辺のつなぎ方きっと、分かれば説明してください。

それと、前回、3.11の震災のときにアリーナ部分にバットレス、天井崩壊したときにある程度補修しているのです。そのときに0.6を満たしていなかったのかなと思うのです。本当は、0.6は満たさなくてはならないのです。だから、そのときに0.6満たしていなかったのはどういう事情で満たしていなかったのか。今回バットレス入れることによって0.75を満たすわけですから、本来であれば0.6満たしていれば、アリーナ部分は手をつけなくても、舞台部分だけであれば、全部補助金でできたのかなと思うのですが、0.75に上げるということですから、無理なのだと私は思いますが、その辺2点教えてください。

○議長（高橋 実君） 少々お待ちください。

駒田係長。

○都市整備課主任兼都市計画係長兼建設係長（駒田栄雄君） ありがとうございます。まず、ステージ部分とアリーナ部分の接続についてですが、今回ステージ部分、いろいろ子細が起きていまして、耐震の強度も不足しているところでいろいろ補強する中で、ステージの屋根も現在RCの屋根にはなっているのですけれども、今回鉄骨の屋根に替わるものとなります。その鉄骨でアリーナ部分

と同様にブレースが入った鉄骨の屋根になりまして、それがアリーナ部分の鉄骨の屋根の部分と接合、すみません、細かい、どのように接続するのだというところがあれなのですが、どちらも鉄骨の屋根になります、部材として確実に接続すると、それを基に耐震の設計をした中で基準値を満たすという結果になっておりますので、そこについては確実に施工させていただきたいと考えております。

○議長（高橋 実君） 竹原副町長。

○副町長（竹原信也君） 今の構造体について、私から補足させていただきます。

実は、先ほど独立して壁が外立っていますよというところと、ここでいう、図面でいうと、まず①の図面で一番左側の上に書いてあるXの15という通りのところの壁と、あとXの13という壁があるかと思います。この壁のところに横に、13から15のほうに鉄骨を渡して鉄骨で結ぶと、その上にコンクリートを載せるということで、前は15の壁が独立的にただ浮いていた、ただ立っていたやつ、それを13の壁と鉄骨でくっつけてコンクリートを打つということになっていますので、一体化という形で今回なるような設計になっております。

構造的なところは以上です。

○議長（高橋 実君） 補足説明か。別。

生涯学習課長補佐。

○生涯学習課長補佐兼生涯学習係長（三瓶秀文君） 2番目のアリーナ部分の災害復旧の工事の後どうなったかということに対してなのですが、現在一部トラスのブレースが天井に載っかっておりますが、そこが一部破断したというところがございます。旧耐震の建物としてこれまでやってきていましたので、今回新たな耐震補強をする中で基準に満たすものとしてやっていこうと考えてございます。保有水平耐力を強化するということで、今回は照明の工事と併せて、天井を外した段階でトラスのブレースの下に水平ブレースを入れていくというような工事を行ってまいりたいと思っています。よろしくお願ひします。

○議長（高橋 実君） 9番、渡辺三男君。

○9番（渡辺三男君） 今回0.75まで耐震を上げるためにブレースを入れるというのは分かりましたけれども、前回補修したときに0.6満たさないような補修したという経緯はどういう経緯でなったのか。体育館としての施設で使うのであれば、0.6は満たさなくてはならなかったのですよね。それを下回ったというのはどういうことなのか。先ほど一番最初の説明の中であったと思うのだ、0.6を満たしていなかったということ。それ1つと、頭のつなぎに関しては、アリーナ部分から鉄骨で出してきてつなぐということは、完全な接続になるのかなと。私考えていたのは、鉄筋組んで、鉄筋溶接するなりなんなりして、それでコンクリートでくるんでいくのかなと思っていたのですが、それでは完璧にはならないのかなと思いましたので、その辺を聞かせていただきました。それで、先ほど、ろとはとにの柱に関しては、ここが一番私心配していたのです。当然上が開いているということは、地盤が下がっているのかなと、片方に。それで、またそういうことは起きないかということだったのです

が、詳しい説明聞くと、この構造体に力はほとんどいっていないのかな。ただ、地盤を強化するなりなんなりしてバットレスをきっちり入れることによって、壁の倒れは防げるのかなと。ましてや、いと、このX13通りですか、これをつなぐことによってまた少し強くなるのかなと思いますので、この辺は心配ないのかなと判断します、私は。そういう中で、この施工がきっちつできるかどうかが一番問題だと思うのです。そういう中で、条件付とかいろいろ言っていますが、なかなか条件を伴わないときも時にはありますので、一般競争入札ですから、その辺はきっちつしっかりと確認して発注していただければ完璧なものができるのかなと。

あと1つ心配なのは、この体育館を造るときに、アリーナ部分とステージ部分をなぜ離したのかということです。恐らく離すことによってプラス要因があったから多分離したのだと思うのです。本来であればくっつけたほうが簡単なはずですから、今回はくっつくわけです。くついたおかげで何か悪さすることはないのかどうか、その辺は確認していますか。

○議長（高橋 実君） 暫時休議します。

休 議 （午前 9時47分）

再 開 （午前 9時48分）

○議長（高橋 実君） 再開いたします。

10時まで空気の入替えのため休議します。

休 議 （午前 9時48分）

再 開 （午前 9時55分）

○議長（高橋 実君） では、再開いたします。

都市整備課長。

○都市整備課長（大森研一君） それでは、耐震診断等の経緯についてお話しさせていただきます。

3.11のときの地震被害があって、そこからI.S値0.75を満たすような形で直せなかったのかというところでございます。こちらにつきましては、当時文部科学省の災害復旧費を充当して工事を進めさせていただきました。そのときには構造体が何かというものではなくて、今壊れている部分を通じての復旧という形を取らせていただきござります。今回令和4年度の実施におきまして、そちらも確認したところ、ブレース等に不足があったということが確認されました。ですので、今回そちらについてしっかりとやらさせていただきたいということで検討させていただきござります。

2点目、アリーナとステージ、今離れているような状況でということで、これに対する一体的に施工したら何か問題があるのではないかというご質問でございました。こちらにつきましては、設計者に確認させていただきまして、問題なくこの構造体でも十分に使用できるというものでやらさせていただいてござります。施工方法につきましては、我々もまだ不勉強なところがございます。工事監理

なんかも委託させていただきまして、勉強しながら、こちらはしっかりと確認させていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） 9番、渡辺三男君。

○9番（渡辺三男君） ありがとうございます。耐震に関しては、震災後天井とか一部分直したときに関しては、構造体まではいじらなかつたと。耐震診断もしなかつたという経緯で、今回耐震診断の結果が出たわけでしょうから、その辺は理解します。

あと、いとほとアリーナ部分とのつなぎに関しては、鉄骨構造体で完全につなぐということで、離れる問題は全く今度なくなるのかなと思います。そういう中で、私アリーナとつなぐことによって何か問題が起きないのかなという考え方も持つたわけですが、アリーナ部分はステージ部分と比べると、ステージから見るともう何十倍の大きさあるわけです。それを引っ張って倒れていくようなことはないとは思いますが、その辺を十分気をつけて、管理しながらやっていただきたい。

また、我々、冒頭で言いましたが、避難して非常に苦労していますので、いつ何どき地震災害、風水災害に見舞われるか分かりませんので、ぜひよりいいものを一日も早く造り上げて、避難所として開設できるような準備方お願いできればと思いますので、私は今回そういう考え方であれば、新築にこだわらず、早急に直していただくことを願います。

○議長（高橋 実君） ほかにありますか。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 大きい地震が3回来たということで、東日本大震災と令和4年と令和3年と、そういうことで今回の柱がおかしいということなのですが、私は柱だけではなくて、全体的に今分かっていないところも結構被害が及んでいるのではないかなど、そう考えられるのだけれども、その辺は徹底的にチェックしているのかどうか、それが1点。

あと、先ほど竹原副町長の発言の中で、考え方というところで、町民よりもという言葉を使いながら、イベントとかコンサートとかって言っていたが、私は第一優先は町民であるべきだと思っているの。結局富岡町体育館で、富岡町民のための避難所ということだから、町民よりもほかから来る人のために必要なのだという考え方方は私はどうなのかなと。やはりよそから来る人のほうが大事だよという考え方なのか、町民の方が大事だから、避難所で安全性を保つために大事なのか、その辺の考え方。

それと、IS値0.75という耐震基準なのだけれども、それは震災前には保たれていたのですか。結局体育館を避難所として使うことができる状態であったのかどうか。

あともう一点は、今日全協を開かなければならぬ理由。去年の段階では調査中だから、被害がはつきり分からぬ。でも、災害だから災害査定が受けられるというような話で、今の説明でだんだん、だんだん災害査定が受けられなくて、基金だよと。基金というのは私は貯金と感じているので、貯金を使って直さなければならないとなつてきているのだけれども、入札直前になって、実はこうなのだ

よという、この話の進め方に問題はないのかと。その辺の話の進め方、もっと早く議会に説明すべきではないの。あと数日後には入札でしょう。条件付の一般競争入札ということで広く募っているわけだ。そのときにはもう議会説明は終わっていなければならぬのではないのでは、本当は。こういう運び方に問題はないのかどうか、その辺の考え方も教えてください。

○議長（高橋 実君） 質問の1番、3番は誰かな。2番は高野副町長、やって。

〔何事か言う人あり〕

○議長（高橋 実君） 1番、3番、時間がかかるだろうから、2番、高野副町長、答弁お願いします。

高野副町長。

○副町長（高野 剛君） 2番目、この全協を開いていただくということでおろしいですか。

○議長（高橋 実君） 町民優先なのか、よそから来た人優先なのか。何聞いているのだ。

○副町長（高野 剛君） 申し訳ありません。竹原副町長の答弁についてということで、失礼いたしました。

この点につきましては、9番議員のご指摘もありましたとおり、町民のための施設というところが第一というところであります。ただし、交流施設ということで、お客様を町外から呼ぶというところで非常に有効な施設でもありますので、これを安全に保つということ、これは町民の皆さんにとって生涯スポーツの利用であったりですとか、あとは緊急時の避難所であったりというところで町民のためにまず必要ということあります。もう一つ、外の方のために様々なイベントやスポーツ、前回の検閲の際にもスポーツ施設に町外から多くの利用者が集まってきていただいていることで、地域資源としても非常に有効なものと考えてございます。優先すべきは町民ですが、どちらも見ながらというところでございます。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） 1番、3番出た。

建設係長。

○都市整備課主任兼都市計画係長兼建設係長（駒田栄雄君） ありがとうございます。まず1つ目の、今回の構造体に被害がありましたが、ほかにもそういったところないのかというご指摘についてですが、今回こういった被害を受けた中で、昨年1年かけてまず耐震診断、それからそれを基に耐震設計というものをやってきております。これにつきましては、耐震診断をやるに当たっては、細部を全て調べた上で、あと最初の説明にもありましたとおり、主要部のコンクリートのコアを抜いたりとか、そういったところで確実に全体を調査した上で、それを基に計算をし、さらにそれは設計事務所だけでやっているのではなくて、耐震の結果というのはしかるべき評価機関でチェックをした上で認められたものになりますので、調査とかについては確実にやっており、今回のような対応を取れば体育館の安全は保てると考えております。

それから、3つ目の質問でございますが、震災前、I s 値といっております0.75を満たしていない

のではないかというところでございますが、もともとこの体育館が昭和57年に完成したものでございます。耐震の基準というのが昭和56年に今現行の新しい基準になっているのですが、この体育館、57年に竣工しているのですが、56年以前から施工には着手していたもので、古い基準で設計、施工されたものになりますので、先ほどの数値は満たしていなかった造りになってございます。

以上です。

○議長（高橋 実君） 4番目は。

生涯学習課長補佐。

○生涯学習課課長補佐兼生涯学習係長（三瓶秀文君） 廃炉交付金を使う過程と、あと議会に対して説明がなかったのかということでご質問い合わせました。昨年地震が起きてすぐのところで4月に両委員会で総務課と一緒に入らせていただいて、臨時補正をお認めいただいて、その後改修の基本設計、そして夏前には廃炉交付金を使って直していくこうという方針の中で、9月の委員会ではお話をさせていただきました。まず、耐震の診断の結果が出た段階で私たちからご説明を議会に対して申し上げるべきだったと今思ってございます。耐震改修の工事の内容についても、早めにご報告、ご相談をさせていただくべきだったと、今となってしまったことを大変申し訳なく思います。この場をお借りしておわび申し上げます。あと、復旧に際してなるべく現況を上回る形で利用を早めに再開したいという思いがありましたので、この部分につきましては、まず早めに診断結果が出た段階で評価の値を公表すべきだったと思っております。

以上になります。

○議長（高橋 実君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（坂本隆広君） ありがとうございます。今の答弁でございますが、三瓶補佐からの答弁のとおりでございます。今後生涯学習課において、またスポーツ施設等の修繕等も出てくる可能性があるので、そういう際には丁寧な説明について実施していきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（高橋 実君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） まず、答弁の順位で、副町長答弁のあった、町民はもとより、町外の方にもという優等生な答弁もらったのだけれども、ただ竹原副町長の先ほどの話は、町民よりもというような答弁だったものだから、私ちょっとそこ引っかかりまして、第一優先は町民であるべきというところは絶対外してはならないと思いますので、今後やはり交流人口も大事だけれども、戻っておられる町民の方、あとは避難先から富岡町に帰ってこられる方、そういった方が第一優先だという考え方方は外さないでください。

あと、避難所の耐震の件なのですけれども、やはり竣工のときに耐震は甘かったから、今の基準ではないと。だから、こういった説明するときには、以前は0.75はいっていないのだけれども、この際

だから避難所として使いたいので、その基準にマッチするために、震災前は0.6以下くらいかな、だけれども、今回せっかく補強修繕するので、避難所として使える0.75まで上げたいのだと、そういう説明を加えてくれれば、より強固ながっちりした安全な建物になるのだなというイメージが湧きますので、その辺も説明に加えてほしかったなとは思います。

あと、これは体育館に限らず、いろんなことがこれからまた起こってくると思います。学童保育の場合もそうだったけれども、いろんな特別養護老人ホームにしてもしかりで、こういったところで議論をするときには私たちに十分な予備知識、資料とか、そういったものを与えていただいて、それで十分な議論をして、納得して、ゴーサインをしてもらいたいなと思います。もう今週中に入札あるのですなんて言われたので、えっ、何だ、ばたばたと駆け足でいってしまうのかって、議会軽視かって取られてしまうので、その辺は十分時間的な猶予をください。

この体育館の考え方について、私なりに述べさせてもらいますけれども、やはり今後の富岡町の人口を考えた場合に、あれだけの大きさの体育館が必要かどうかも議論に入ってくるのかなと。やはり修繕をしても、鉄筋コンクリートの場合は60年という耐用年数であれば、80年使えて、70年使えて、60年後には解体されるというのが原則なのだよと。取りあえず今40年だから、あと20年はきっと0.75で避難所として使えますよと。20年たったときには、そのときの執行部とか議会が決めることであって、もしかしたら町村合併しているかもしれないし、とにかく今35億円、40億円かけて大きいものを造っても、そこから60年ということになんて、そのとき富岡の人口が2,000人くらいで、そんなに大きいものは必要ではなかったなということになるかもしれないで、取りあえず私は今片手くらいで修繕でより安全性の高いものができるのであれば、それを選択で。新築という考え方方は将来の人たちに決めてもらえばいいのかなと今思っています。長々となってしまうので、この辺で締めますけれども、とにかく議会は軽視しないでください。お願いします。

○議長（高橋 実君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（坂本隆広君） ご意見ありがとうございます。まずは、議会への説明でございますが、資料については分かりやすいものを作成して、ご説明をさせていただきたいと考えております。

また、事前に、早め早めにご相談をして、納得をいただいた状況でいろいろと進めていきたいと思います。この件につきましては、全庁に共有をさせていただいて、同じような取組ができるようにしていきたいと考えております。

あと、体育館でございますが、こちらについては、今回耐震改修工事をやって使っていくというようなことで進めておりますが、改修後につきましては、できるだけ、当然でございますが、利用者を増やすような形で頑張っていきますので、議員の皆様にいろいろとご意見をいただければと思っております。ありがとうございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） なければ、副議長。

○副議長（堀本典明君） 議長。

○議長（高橋 実君） あと、東側外壁のバットレス工法ということで、柱、はりが一体化になるのか、ならないのか再度確認したい。詳細図がないから全然分からぬ。それと、建端が8メートルくらいかになるのかな、これ。幅はどれくらいの壁厚になるのだから分からぬのだけれども、1基当たりこれ総重量何トンあるの。それで、これ芯々15メートルで10メートルの長さが3本入るのだけれども、この10メートルの中の土圧というのは総重量何トンかかるの。それで、地盤強度をやっていると思うけれども、耐えられるようになっているの。倍以上の強度を保てるようになっているの。くい打つことないのかなって思うのだ。この点と、これと同じような施設の改修、永山建築設計事務所では実績あるのかな。富岡町でここ二、三年永山建築設計事務所での特に土木工事に関しての設計はあまりにも幼稚過ぎて困惑する現場もあったと思うのだけれども、今の都市整備課長も分かっていると思うけれども、そこら辺を頭に置いて、上がってきた成果品をしっかりチェックしているのかな。今言ったやつに関してだけ答弁お願いします。

○副議長（堀本典明君） 暫時休議します。

休 議 (午前10時17分)

再 開 (午前10時20分)

○副議長（堀本典明君） 再開します。

建設係長。

○都市整備課主任兼都市計画係長兼建設係長（駒田栄雄君） ありがとうございます。すぐ回答できなくて申し訳ありません。バットレスの構造についてですが、まず厚みが60センチ、地表面からの高さは8.9メートルになります。こちらにつきましては、支持力を得るために下に鋼管ぐいを打ちます。12メートルで支持層に到達すると見込んでおりまので、バットレス1個につき12メートルのくいを2本打って支持力を得る計画としております。ちなみに、くいの耐力としては1本当たり450キロニュートンのものが必要と考えております。まずこちらについては実際施工に先立って工事の中でボーリング調査を実施して、そこも精査した上でくいの長さとかが最終的に決まるようになりますが、そこまで含みでこの工事の中でやる予定としております。

以上です。

○議長（高橋 実君） 何で図面に起こしていないのだ。くいのことは図面に起こしてあれば聞かなかつたのだ。鋼管ぐいの鋼の字もないし、この4枚の資料で。だから、これだけの幅は分からなかつたけれども、厚み60センチの高さ8メートル90センチで、ダブル配筋で異形鉄筋が何ミリ入るのだから分からぬけれども、それなりのトン数になってくるだろうと思ったから、地震になんかなつたらば、微小地震だとしても、バットレスが建物の柱、はりと連結してしまうとそれなりに下がって、今度東

側に引っ張られてしまうだろうと思って聞いたのです。一応分かりました、くいの状態は。これも出すやつにはちゃんと聞かれる予測を立てて、バットレスの詳細図面を入れてくれると一番よかったです。そこら辺は、今後十二分今回のことと糧にして、次回からそういうことのないように。

それで、もう一回、くどいけれども言っておく。これは質問でなく、新築であろうが改修であろうが、最低限度議会の動議案件になるかならないか考えて、5人、5人の両常任委員会で説明するのもいいかも分からぬけれども、10人集まつたときの質問の仕方と5人、5人の質問の仕方も違うし、そこら辺は今後今回みたいなことないようにだけよろしくお願ひしておきます。これは議長から、全議員いる前で、もう一回改めて言っておきます。終わります。

○副議長（堀本典明君） 戻します。

○議長（高橋 実君） ほかにありませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） これをもって質疑を終了いたします。

以上をもちまして付議事件1、富岡町総合体育館耐震補強その他改修工事についてを終わります。

次に、その他に入ります。執行部から何かございますか。

〔「ありません」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） 議員からは何かありますか。何でもいいですよ。その他だから。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） では、以上をもちまして富岡町議会全員協議会を閉会といたします。

閉会 （午前10時24分）